

令和4年7月10日

参議院選挙投票日

県内理学療法士

投票率100%を

目指しましょう！

大切な一票がある

イメージ

イデオロギー

公約

政策

経歴



鹿児島県理学療法士連盟広報紙

Propulsion 令和4年7月号

未来は僕等の手の中

私が思う理学療法士の未来

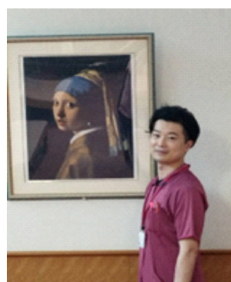


今夏の影響が、これからの理学療法士の10年に関係するやもしれません。
「ゆでカエル」にならないよう、皆で情報を共有し、行動に繋げる事で、「理学療法士」という素晴らしい仕事・職種の未来が明るくなると確信します。さあ、動きましょう。
公益財団法人慈愛会 今村総合病院 村山芳博（連盟 会長）

～ 動くということ ～

「いつも通りにあたりまえに」とは？何もしなくてもそこにあるものかな。
いえ違います。「いつも通りにあたりまえに」は誰かの動きによって守られた「日常」です。
患者さんの「いつも通りにあたりまえ」の日常は我々が守るのです。そしてもちろん「自分たち」も。

「いつも通りをあたりまえに」7/10は、さあ、動こう！
公益社団法人 鹿児島県理学療法士協会 会長 平名章二（連盟 副会長）



平均年齢34歳という私たち理学療法士の未来は、その年代の方々の今後の動きで変化していくと思います。ですので未来のことを聞かれると、私はいつも、「自分たち次第ということは未来は明るい」と回答しています。

介護老人保健施設グレースホーム 岩森 俊（連盟 副会長）

「理学療法士が医療機関だけでなく、地域やいろいろな領域で活躍できる場を増やしていきたい。」それには、誰かが(変化)領域を広げてくれるのを待っているのではなく、自分が動き(変化)させることが重要！ その一歩が選挙での投票という権利を行使することではないでしょうか。～政策を変えるためにまず動こう～
福祉生活協同組合むぎのめ 赤崎昭朗（連盟 事務局長）



自分の得意は他者へ貢献することで生きていくと思っています。自分たちの得意を活かし、社会に貢献し続けるために、必要とされるために、「今」が大切なのではないのでしょうか。自分たちの手で明るい未来を創りにいきましょう。
介護老人保健施設 アンダンテ伊集院 宮雅紀（連盟 広報局副局長）

近い将来、予後を想像する理学療法士は患者だけではなく、その統合と解釈力から職場や地域のコーディネーターに！そして先輩から受継いだものを次の世代に引継ぎ、リハビリの枠に捕らわれないその時代にあった理学療法を創造していると思います。その為にも理学療法を未来に継ぐ必要があります。選挙に行きましょう！

医療法人 浩和会 きりしま内科リハビリクリニック 湯地英充（連盟 組織局長）

